

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 緑丘 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

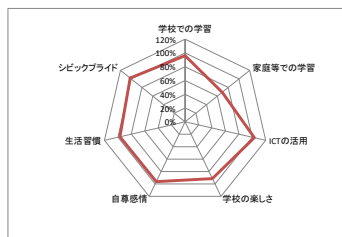
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均を下回っている。また、正答率の低い難問についての無回答率が福岡、全国と比較して高く、粘り強く問題に取り組む姿勢が必要であることがわかる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	文脈に即して漢字を書く問題	下回っている
	努力が必要な問題	意見と根拠など情報と情報との関係について理解する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全体的に平均以下である。計算問題は何とか解けるが、文章問題になると解くのが難しい。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	関数に関する問題	下回っている
	努力が必要な問題	データの活用、図形問題（特に証明問題）	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「シビックブライド(地域への誇りと愛着)」の項目は全国平均を大きく上回っていた。これは、3年間で計画的にSDGsを核とした総合的な時間の学習を実施したためだと考えられる。
・各教科で考えをまとめたり、意見共有をしたりする場面で、タブレットを活用することで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。
・土日の家庭学習の時間が少ない。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組

学習に関しては、「わかったつもり」を「わかった」に変えていくために、反復練習や主体的・協働的な学びの中でICT機器をより有効的に活用し、授業を行っていく必要がある。

- ② 家庭生活習慣等に関する取組

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対して1時間以上の割合が低いため、自主学習ノート等の活用やタブレットを活用した探究課題の設定により、家庭学習の推進を行っていく必要がある。